

2011年度(2012年3月期) 第1四半期決算説明会



2011年7月29日
大正製薬株式会社
常務取締役 酒井 明人

2011年度第1四半期決算：概要



(億円)

	2010年度 1Q	2011年度 1Q	前年同期比 増減	
売上高	646	643	▲3	▲0.5%
セルフメディケーション事業	399	399	▲1	▲0.2%
医薬事業	246	244	▲2	▲0.9%
営業利益	119	109	▲11	▲9.0%
経常利益	129	126	▲4	▲2.9%
四半期純利益	77	81	+3	+4.5%

注：金額は億円未満四捨五入

2011年度第1四半期の概況(1)



- セルフメディケーション事業(国内)
 - 国内OTC医薬品等の売上はほぼ計画通り
 - リポビタンシリーズ、リアップシリーズは若干のマイナスだが、想定の範囲内
 - リビタシリーズ、通販などH&B関連は順調
 - 震災の影響は軽微

<ご参考:市場の状況>

- OTC医薬品市場
2011年度4～6月:前年同期比▲3%

(インテージSDIデータをもとに当社推計, 売価額ベース)

2011年度第1四半期 主要ブランド売上高



(億円)

	2011年度 1Q	前年同期比 増減	
リポビタンシリーズ	182	▲3	▲1.7%
パブロンシリーズ	47	+1	+2.3%
リアップシリーズ	36	▲1	▲2.8%
ナロンシリーズ	9	▲2	▲15.9%
胃腸薬シリーズ	9	▲1	▲1.5%
コーラックシリーズ	9	▲1	▲1.8%
リビタシリーズ	10	+1	+13.6%

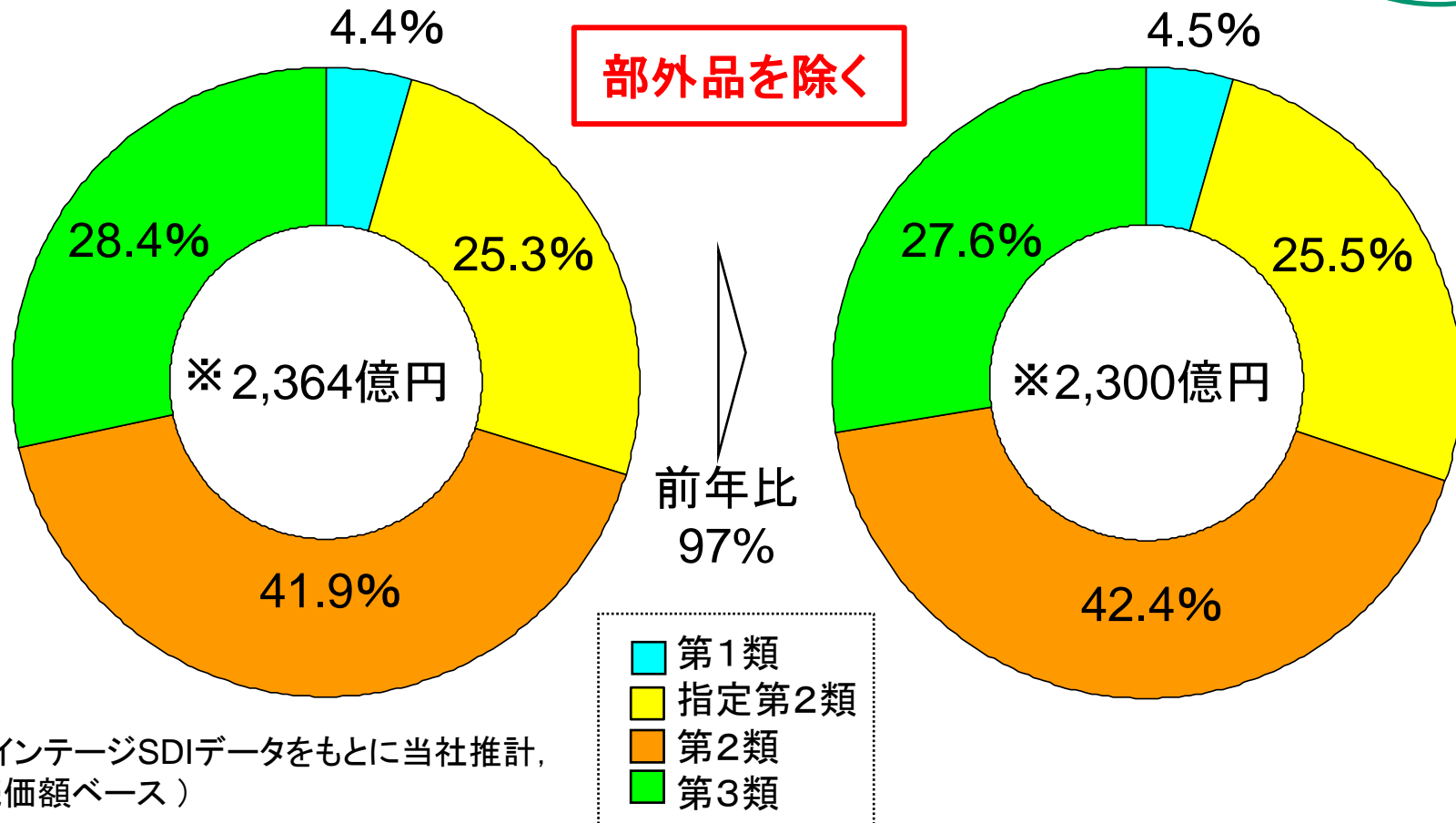
注:金額は億円未満四捨五入



OTC医薬品分類別構成比

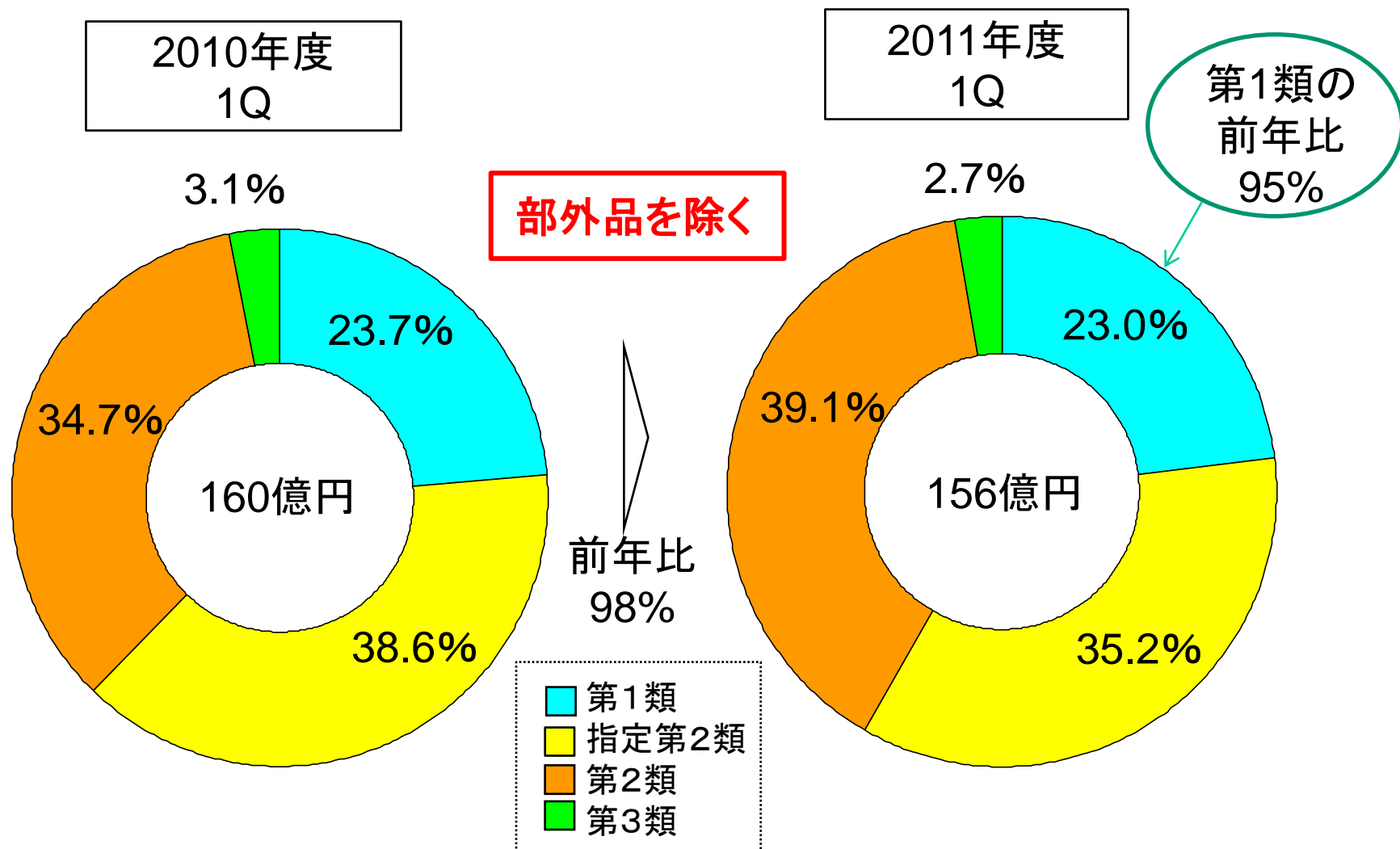
国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く
(2010年度1Q) (2011年度1Q)

第1類の
前年比
98%



(インテージSDIデータをもとに当社推計, 売価額ベース)

当社のOTC医薬品分類別売上構成比



2011年度第1四半期の概況(2)



- アジアOTC医薬品事業*は順調に推移
 - 第1四半期実績:売上高13億円、営業利益8億円
- 好調に推移した要因
 - 販促活動を積極的に展開
 - Tempra(小児用解熱鎮痛剤)、Counterpain(外用消炎鎮痛剤)ともに伸長
 - タイを中心に好調

* BMS社からの買収分

2011年度第1四半期の概況(3)



• 医薬事業

- 大正富山医薬品全体はほぼ計画線
- 4月は震災の影響を受けたが、5月以降、回復
- ゾシン、オゼックス細粒小児用は引き続き好調
- クラリス: 昨年に比べて感染症の流行が低水準
- 大正富山医薬品の抗菌薬市場*シェアは
17.5%と上昇 (* J01抗菌薬市場)

<ご参考:市場の状況>

- 医療用医薬品市場: 前年同期比+5.3%
 - ・当社の主力市場である抗菌薬市場は▲3.8%
(経口▲4.1%、注射▲3.5%)

(©2011 IMS ジャパン K.K.,

JPM2010年・2011年(4月-6月)をもとに作成, 無断転載禁止)

大正富山医薬品：2011年度第1四半期 主要製品売上高



(億円)

	2011年度 1Q	前年同期比 増減	
クラリス	48	▲6	▲11.7%
ゾシン	39	+5	+14.5%
パルクス	23	▲3	▲10.2%
ジェニナック	8	▲2	▲11.3%
オゼックス	11	+1	+11.1%
ロルカム	9	0	▲7.9%
エディロール	6	+6	—

注：金額は億円未満四捨五入

2011年度1Q：売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p>売上高 (▲3億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (▲1億円) (主な増減要因) 国内OTC等 ▲3億円 アジアOTC +3億円 リビタシリーズ +1億円</p>	<p>医薬事業 (▲2億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 ▲6億円 中間製品等 +4億円</p>
<p>営業利益 (▲11億円)</p>	<p>売上総利益*: ▲3億円 (売上総利益率* 前年同期64.3%→当期64.1%) 販管費: +8億円 主な増減: 研究開発費 +3億円 販売促進費 +6億円 システム関連 ▲2億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は8億円改善(前年同期▲9億円→当期▲1億円) 特別利益: 6.5億円(災害損失引当金戻入額など)</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注:金額は億円未満四捨五入

2011年度：通期業績予想



2Q累計ならびに通期予想は変更なし

(億円)

	2Q累計予	通期予	前期比増減	
売上高	1,365	2,740	+54	+2%
セルフメディケーション事業	870	1,713	+41	+2%
医薬事業	495	1,027	+13	+1%
営業利益	210	395	▲46	▲10%
経常利益	235	455	▲86	▲16%
当期純利益	140	280	▲69	▲20%
EPS(円)	50.76	101.52	▲23.38	▲19%
(参考)				
大正富山医薬品売上高	438	910	+12	+1%

予=予想 注:金額は億円未満四捨五入

第2四半期以降の動向



・ セルフメディケーション事業

- 国内OTC等：リポビタン、パブロン、リアップを中心として収益を構築
- アジアOTC：東南アジア市場における事業拡大（BMS社からの買収分、ならびにHoe社買収分を中心に）

・ 医薬事業

- 感染症領域：抗菌薬市場シェアの更なる拡大
- 炎症・免疫領域：
エディロールの市場への早期浸透
感染症領域に並ぶ柱に育成

2011年度：主要ブランド・製品売上高予想



(億円)

	2011年度 2Q*予想	前期比 増減	2011年度 通期予想	前期比 増減
リポビタンシリーズ	409	+1	716	+5
パブロンシリーズ	101	+1	257	0
リアップシリーズ	74	0	152	+3
ナロンシリーズ	22	0	43	▲3
胃腸薬シリーズ	20	0	43	0
コーラックシリーズ	21	+2	40	+1
リビタシリーズ	18	+1	37	+1
クラリス	94	▲2	220	▲9
ゾシン	77	+6	162	+14
パルクス	51	0	100	▲2
ジェニナック	23	0	50	+5
オゼックス	18	+1	41	0
エディロール	17	+17	34	+34

* 期初からの6ヶ月累計

注：金額は億円未満四捨五入

アジアOTCについて



(億円)

	2010年度 通期	2011年度 通期予想	前期比 増減
アジアOTC	47	65	+18
BMS社からの買収分	47	51	+4
Hoe社買収分	-	14	+14

- 業績見通しは期初から変更なし
- BMS社からの買収分：積極的な販促活動が寄与する見通し
- Hoe社買収分：業績への寄与は第3四半期以降

(Hoe社は1月期決算のため、2011年8月～2012年1月分、6ヶ月分の損益を取り込む予定)

セルフメディケーション事業：新製品



<2011年度：新製品の見通し>

<上期>

リポビタンD8

リポビタンゴールドN

アルフェ エフィーアップ

など

<下期>

リアップシリーズ

胃腸薬シリーズ

リビタシリーズ

(生活習慣病対応)

など

赤文字：発売済みの製品

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



国内

(2011年7月29日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2/3			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
フェーズ2			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
TS-071 (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

* CT-064: 中外製薬における開発コードはRG484

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2011年7月29日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2(続き)			
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

研究開発費の動向



2011年度1Q実績:50億円(前年同期比+3億円)、計画通り
2011年度計画:262億円(同+25億円)、変更なし

(十億円) ■ セルフメディケーション ■ 医薬

